

様式2(長者原)

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

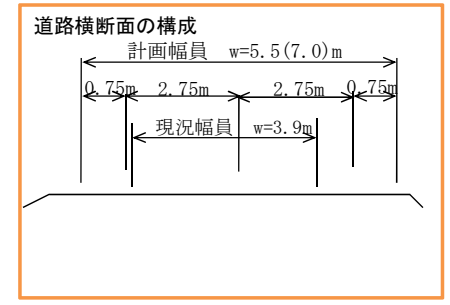
事業名		県単道路改築事業		路河川名等	(一)大木浅田切線				
事業毎の通番		4	市町村名	佐久市	箇所名(ふりがな)	長者原(ちやうじゃはら)			
事業概要	事業目的	当該路線は、長者原地区から(国)142号へ向かう道路で、迂回のない道路である。また当該地区の野菜栽培が盛んで行われ、その出荷量は、佐久市全体の20%に相当する。そのため、県外へ搬出する大型トラックの利用が多く通行する。しかし、現況は幅員狭路で大型トラック同士のすれ違いが困難であり、地元よりの改築要望も強いため、早期に交通の車両の走行性向上を図る。							
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり(暮らしを支える道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法				
	関連する事業、計画等	佐久市中石堂道路整備							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:252台/日(H42推計)							
	着手年度	平成28年度	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	平成31年度	費用対効果	1.0	国庫	0	県債	81,000	一般財源
全体事業内容(主な工種)	道路拡幅工 L=500m、W=5.5(7.0)m			90,000	0	81,000	9,000		
年度事業内容(主な工種)	路線測量一式、道路詳細設計一式			6,000	0	5,400	600		
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間・経費等の減少 1.1億円							
	間接的効果(定量的・定性的)	産業支援による地域活性化							
評価の視点	必要性	○代替道路の有無：代替道路がない。 ○交通結節点アクセス：望月小学校スクールバス路線 ○生活支援：観光地春日温泉へのアクセス道路 ○地域の活性化：市街地の活性化に資する					評価 A		
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：佐久市総合計画、佐久市実施計画 ○緊急輸送路の路線指定：佐久市地域防災計画避難路 ○地域指定：振興山村、過疎地域					評価 B		
	効率性	○費用対効果(B/C)：1.0 ○事業期間：4年間(H28~H31) ○工法等の比較検討：詳細設計にて検討する。 ○他事業との連携：佐久市中石堂道路整備関連(H28~H31)、佐久市長者原地区産地支援事業(H28~H30)					評価 A		
	緊急性	○近年の交通事故件数：H21:1件(車対車) ○渋滞及び騒音・振動の緩和：朝夕の局部的現象を緩和する ○歩道整備：なし ○現況の幅員、半径、勾配：現況アクセス道路幅員4.0m未満					評価 B		
	計画熟度	○事業情報の共有：H27年11月に佐久市実施計画をHP等により公表し、地域住民へ広く周知している ○地域の取り組み：佐久市望月地区から要望があり、協力的である ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働：住民独自の関与が見込まれる					評価 B		
	部意見	事業の必要性・効率性が高いため、平成28年度から事業化した。	行政改革課意見	現道は幅員狭小で、高原野菜出荷時期は大型トラックが多く利用するため、すれ違いが困難な状況になることから、必要性は認められる。	評価結果	○ B			

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



事業概要説明図表

【写真(現地状況)】



事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成27年まで 佐久市長者原の高原野菜を出荷するため、周辺住民から道路拡幅の要望が佐久市にあり。平成27年9月 望月地区から当区間の県道改良について要望あり。平成27年11月 佐久市実施計画をHP等により公表し、野菜栽培に関する各施設等の整備支援と併せて、道路整備を行うことを住民へ広く周知している。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成27年9月 県道大木浅田切線拡幅が望月地区から当区間の県道改良について要望。
③事業説明等の経緯	平成27年11月 佐久市より地元役員と意見交換会を実施し、計画の合意を得ている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	第1次佐久市総合計画、佐久市実施計画に位置付けられている。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	
⑥地域活性化への影響と配慮	道路整備により、関西方面に主に出荷している佐久市農産業への支援効果が期待される。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度
北緯: N 36° 12' 15"
東経: E 138° 22' 29"